

長辛店

次驛の長辛店チャンシンテンは盧漢鐵道ルーハン（鐵道鐵道と改和）の起點フオンタイ、豐臺線との連絡點にして、地域廣

濶長大の乗車臺を設け、八條の待避線を布き、倉庫、工場等の大建築物等略々備はる。

次なる良郷停車場リヤンシヤンの西方約五百米突の地に良郷城を望む。此處より一枝の鐵

路蜿蜒西方に向つて走るもの有り。即ち良郷の西方なる某炭山に通ずる小距離

の鐵道なり。其の西南一帯は、人家稍々稠密して、古の中都若くは燕國の俤を遺せ

り。琉璃河ルリを過ぎて涿州停車場チョウチョウに到れば、西方約四百米突の所に一大城を望み、城

頭突兀たる一高塔を認む。是れ即ち涿州城にして、三國時代には、涿鹿或は永秦と

稱し、蜀の劉備が出生の地として、今尙ほ其の碑碣を存すと云ふ。又次驛の高碑店カオパイ

は、列車の給水所にして、西陵線シリンの分岐點たり。定興城ヂンシンは停車場の北方千二三百米

突の邊に在り。此の地往年范陽と稱し、彼の古壯士が風蕭々兮と悲歌慷慨したる

易水イシユイ（今今は涑水ライシユイ）は、驛の西南に幅約百米突許りの流を漾へて、古代の歴史を語るも

の、如し。固城クを過ぎて安肅アンスに到れば、南方遙に同名の一小古城を見る。要する

に高碑店より西南の地は、概ね開濶にして、所々に村落あり。其の間樹木疎々必ず

相散在す。若し村落なく、啻に疎小林の有るあれば、其の裡は多く饅頭形の墓地と

涿州と涿鹿

易水